

H30年度 多摩市立貝取小学校 授業改善推進プラン

1. 国語 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	知識・理解・技能	読む	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	十分とはいえない	一部に課題あり	十分とはいえない	十分とはいえない	満足できる	十分に満足できる	十分に満足できる	満足できる
課 題	<p>○国語の学習内容において、都の平均正答率との比較から、特に「書く力に関する内容」と「言語の知識・技能に関する内容」が課題として挙げられる。</p> <p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見文が出題されているが、日記や作文は低学年から取り組んでいる。しかし、読み取ったことから考えて文章を書くことが苦手である。 ・文章全体の構成の効果についての理解が不十分である。 ・自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、文章にすることに課題がある。 ・自分の考えを文章化して表現することが難しい児童がいる。 ・内容を読み取り、そこからデータを抽出し記述する力に課題がある。 ・基礎となる、読解力や文章を組み立てる力に課題がある。 ・読み取った内容を活用し、記述する力に課題がある。 ・起承転結のある文章構成を考え、文章表現を工夫したり、自分の考えや思いを加えて文章化したりする力が弱い。 ・自分の考えを書き出すための語彙や表現に乏しく、書くことに対しての苦手意識が強い。 ・内容を要約する力が低く、文章をまとめる力の定着が不十分である。 <p>【知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の定着や慣用語や敬語についての理解と活用力に課題がある。 ・既習の漢字が定着していない。 ・正しい文法で文章を書くことができない。 ・語彙が乏しく、思っていること、考えたことを適切な言葉で表現することが苦手である。 							
改善策	<p>【書く】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から、説明文を書く練習をする。特に、1年生は説明文が年間4つあり、本から情報を抜き出せるように力を付けていく。 ・低学年では、物語を読む際に、時間の流れや内容、出来事の順序に着目させる。説明文では問いと答えや文章の始め・中・終わりを丁寧に読み取るように指導する。学んだことを活用して文章を書かせるように指導する。 ・日記や作文、読后感想など書く活動全般の充実を図る。また、その際に文の構成を考えさせながら取り組ませる。 ・「目的に応じて書く」力を向上させるために、読み手の関心を喚起する書き出しや読み手が理解しやすい表現の工夫、理由や事例を挙げ、順序立てて書くことなどの具体的な手法について指導する。さらに、よく書けた文例を紹介し、具体的に評価し価値づけを行って、書くことへの意欲を高める。 ・様々なジャンルの文章を取り上げ、内容を要約したり、考察したりする学習を行う。 ・ブックトーク等で、多種多様な書籍に触れる機会を設けることで、語彙や文章表現が獲得できるようにする。 ・新聞などを活用して書かれている内容の要約をしたり、自分の考えを書いたりする活動を行う。 ・事実と考えを区別して書く習慣を身に付けさせる。国語以外の学習でも、自分の考えを書かせることで、書くことへの抵抗感をなくす。 							

	<p>【知識・理解・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から習った漢字を使う習慣を身につけられるように指導し、漢字の読み書きや語彙力など、基礎的・基本的な力を定着させる。 ・成り立ちや部首を調べさせるなど、多様な観点から指導し、漢字への興味・関心が高められるように指導する。また、積極的に辞書を活用させ、漢字の読み書きや語彙力などの基礎的・基本的な力を高める。また、これらを進める上で「東京ベーシック・ドリル」の有効活用をさらに工夫する。 ・朝学習や家庭学習において語彙力を高めるために、プリントを活用し習熟を図る。 ・全学年で文字を書くときの正しい姿勢や鉛筆の持ち方など基礎的・技能の指導を徹底する。
--	---

2. 算数 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容			B 読み解く力に関する内容			
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	一部に課題あり	満足できる	満足できる	満足できる	十分とはいえない	十分とはいえない	十分とはいえない
課 題	<p>○基礎的な問題に対する正答率は都の平均を上回った。課題となるのは、基礎的な知識や技能を生かし解決を図る応用的な問題である。</p> <p>【読み解く力に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の際に、既習事項を使って自力解決しようとする意欲が低い。 ・問題の意図やそこに提示されている情報を正確に抽出し、情報処理することに課題がある。 ・忍耐強く最後まで問題に向き合うことが苦手である。 ・公式を覚えているだけで、どうしてその公式が導き出されているのかの理由を理解していない児童が多い。 ・文章問題では、最後まで問題文を読まずに諦めたり、問題の意味を考えずに式に表したりしているので正確な立式ができていない。 						
改善策	<p>【読み解く力に関する内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から図や絵を書いて考えられるように指導する。 ・具体物を操作して、体験的に問題の意味を理解することができるようにする。 ・量の大きさについての感覚を養うために、日常生活の中で量を意識させるようにしたり、身の回りのものを測定させたりして、実感を伴った活動ができるようにする。 ・文章題などでは、問われている部分に線を引くなどし、解答のために必要なデータが視覚的にもとらえられるようにする。 ・問題の内容理解を促すため、いったん口を使った式で表すなど、問題解決までの流れを丁寧に指導する。 ・問題に提示されている個々の情報を関連付けながら読み取らせるように指導する。 ・基礎的・基本的内容の定着が不可欠であることから、「東京ベーシック・ドリル」の効果的な活用を一層推進し、前の学年に立ち戻った習熟学習を行う。 ・問題に応じた解決方法を既習事項から見つけ出し活用する学習活動を多く設定し、問題解決的な学習の一層の充実を図る。 						

3. 理科 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	満足できる	十分に満足できる	一部に課題あり	十分とはいえない	一部に課題あり	十分とはいえない	満足できる
課 題	<p>○「観察・実験の技能」に関する内容と「基礎的な知識・理解」に関する内容が課題として挙げられる。</p> <p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の結果を予想と照らし合わせて考えたり、実験をして分かったことや考えたことを書いたりすることが難しい児童がいる。 ・丁寧且つ正確に観察・実験をすることに課題がある。 ・観察や実験を人任せにしてしまう。 ・実験器具の数には、限りがあり、一人ずつ自分で活動することができない。 ・答えや結論だけを求めてしまい、考察が深まらない。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習で得た知識を日常生活と結びつけて考える力が不十分なため、既習事項が知識として一般化していない。 ・十分に課題把握がなされていないために、結果から考察・結論という過程で知識理解が深まらない。 ・小学校で学習する科学的な事象を身近に感じておらず、理科を学習する必要感が薄い児童がいる。 ・基礎的な知識の蓄積がされておらず、日常の事象と結びつけることや、既習した知識からの予想を立てることが難しい。 						
改善策	<p>【観察・実験の技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験の結果を予想と照らし合わせて考えさせ、考察後の結論を児童に明確に示す。 ・実験結果のデータを収集し、その近似値をとることを授業で取り入れることで、責任をもち観察・実験する意識をもたせる。 ・観察・実験の際は一人一人が責任のある役割をもたせる。 ・学習を通して、仲間と共に発見を喜び、間違いを指摘し合えるように支援していく。 ・事象の変化の様子について視覚資料を用いながら個々の気付きへの支援を行う。 ・実験器具の扱い方や実験の方法・手順など、基礎的・基本的な学習事項がいつでも確認できるように掲示しておく。実験方法や注意点を丁寧に指導する。 ・単元のまとめでは、映像教材を使用し、学習内容の定着を図る。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「東京ベーシック・ドリル」を積極的に活用し、実験器具の扱い方や実験の方法・手順など、基礎的・基本的な学習事項の確認・定着を図る。 ・授業の導入で、一人一人の児童がしっかり課題を把握できるような提示の仕方を工夫する。 ・ねらいを板書し明確に示す。 ・授業の中で、理科で扱う内容が、生活に根差していることに気付かせたり、理解させたりする。 ・新しい単元の学習に入る前に、これまで学習した関連する内容を復習させる。 						

4. 社会 内容および観点別の分析

観 点	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度	一部に 課題あり	満足できる	満足できる	十分に 満足できる	満足できる	十分とはいえない	満足できる
課 題	<p>○基礎的知識・理解の項目については、都の平均を上回った。「資料を読み取る力」に課題がみられた。</p> <p>【読み取る力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料を関連付けて考えることに課題がある。 ・資料から正しく情報を読み取ったり、絵や図を使って学習したことをまとめたりする力が不足している。 ・グラフや表などから、正確に情報を読み取ることに課題がある。 ・グラフや表を見て、必要な情報を読み取ることを教師や他者に委ねてしまう傾向にある。その情報から自分の考えをもったり、推測したりすることに消極的ある。 						
改善策	<p>【読み取る力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報を比較・関連付け・統合するための問題解決的な学習計画を立案し、実践する。 ・資料を活用し、読み解いたり考えたりする授業を通して、読み取る力を育てる。 ・新聞やニュース（映像や写真）を活用し社会的事象に関心をもたせ、社会にどのような影響を与えていくのかを考えさせるようにする。 ・1つの資料にも様々な要素が含まれている。児童が混乱しないように資料をよく吟味して提示する。 ・様々なグラフや表を用いて、情報を読み取らせるように工夫する。また、グループやペアでの話し合いの場面を設け、考えを広げることができるように指導を行う。 ・観察や調査、見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実を図る。 ・「東京ベーシック・ドリル」を効果的に活用し、個に応じた学習支援を行い、基礎的・基本的な学習事項（方位・方角、地図記号、都道府県の位置、グラフや資料の読み取り方など）の定着を図る。 ・意欲的に学ぶことができるようにするために、より身近に感じられる課題を設定する。 						